

羽村大橋拡幅整備だけで10年。 不可能な事業に税金を垂れ流し

3月市議会の報告 山崎陽一 区画整理撤回要求 第24弾

山崎：広すぎる道路計画を聞く。

市長：羽村大橋は、東京都が平成27年を^{めど}目途に着手し37年度までの完成を目指す。

（西口区画整理区域内の）3-4-12号線が通過する区間は、現段階では優先整備路線として指定されていないが、区画整理が具現化したら順次事業化を検討する。

阿部部長：3-4-12、3-4-13は、都がどのように整備していくか今後、協議する。平成33年度までに用地開けが完了しても、道路そのものが完了するかどうかは今後の進捗度合いによる。

山崎：今まで、奥多摩街道をかさ上げし歩道を造る、羽村大橋から水道道路まで暫定道路を造る等、さまざまな答弁があったが、都とこれから協議するとのことで話がよく見えない。

阿部部長：羽村大橋関係は、市有地を活用しながら行う。都市計画道路の線形内の擁壁工事について都と協議している。その結果、側道、あるいは仮道として整備していくかどうか・・・。

山崎：羽村大橋は、羽村側に大きな陸橋を造り、東小の脇まで持って行くと聞く。530m（大橋部分）と200m（東小の脇まで）に近い橋を造る、橋がおりたら新奥多摩街道まで200m程あるが空かないと使えない。
都もその目処^{めど}が立たないとやらないと思う。

阿部部長：橋梁がおりた所から、約200m部分は換地の手法で移転する。出来るだけ期間が短縮できるよう努力するのが私の使命。

反対の会コメント

区画整理で整備するという、都道 3-4-12、3-4-13、3-4-15 号線は、いずれも東京都の道路事業化計画に揚げられていない。昭和30年代に都市計画決定されているため、計画としてはあるが、東京都は求めていないという。羽村市が先走って計画しているだけだ。

羽村市の区画整理は行き当たりばったりで先行きが全く見えない。

山崎：羽村大橋だけでも 10 年かかると考えられる。

平成 33 年迄、期間 20 年の区画整理を議会で通し権利者に説明し、始めたが、出来ない計画であったという事になる。

不可能な事業を始めた訳だ。即刻、見直すよう指摘する。

山崎：意見書はどう事業計画変更反映されるのか？

市長：第 2 次換地設計(案)の修正に対する意見書(3 回目)は104 通提出された。権利者との調整を行い審議会に諮問し施行者として換地設計(案)を決定する。権利者への決定通知は 8 月を目途に準備を進める。

- ・第 2 次換地設計(案)の決定に合わせ、道路整備費や移転補償費などの再積算を行い、その結果によって、総事業費や事業期間を見直し、平成25年度内に公告・縦覧を行い東京都の認可を受けたい。
- ・これまで寄せられた多くの意見は、事業計画に反映させることはないが、今後、工事・移転計画等の策定段階で参考にしたい。

山崎：事業計画書通り平成 33 年完了とすれば、残り 8 年を年間 30 億円近い無理な事業費の計画を作るのか、現在の年間 4 億円くらいの繰り出しで、60 年掛かる計画とするのか。

何時までも長々と不可能な事業を続けるのは貴重な税金の垂れ流しだ。早い機会の見直しを求める。

反対の会コメント

多くの地権者からの反対や見直し、修正の意見は、工事を進めるために参考にするという答弁。地権者をバカにしている。多くの地権者がこの計画図自体に反対だ。

社会・経済状況が激変している。事業の必要性、実現性、住民の賛否などの検証が必要だ。既に各地で区画整理の中止・見直しが始まっている。

山崎：事業費予定と事業内容は？

市長：平成 26 年度以降は、本格的な整備事業に着手する計画で、事業費は 26 年度 7 億 700 万円。27 年度が 3 億円を見込んでいます。整備箇所は現段階では、3-4-12 号線沿線以外、詳細は決まっていないが、今後、策定する、工事・移転計画の中で明確にしていく。

建物補償の調査が1棟で500万円！ 異常な高値で新都市建設公社に丸投げ

山崎：平成 25 年度の予算額は、一般会計の 1 億 1100 万円に都の交付金 6000 万円が加わり、合計 1 億 7100 万円。内容は何か？

細谷課長：新都市建設公社に直接交付される都の交付金 6000 万円は、25 年度の全体工事計画、移転計画の策定の費用に充当。コンピューターでの作業。区画整理審議会選挙費 620 万円は、諸経費を含めると約 1200 万円。

山崎：区画整理審議会選挙費約 1200 万円は、参議委員選挙 1890 万円、市長選 1400 万円から見ても高い。市職員で出来ないのか？

石川課長：新都市建設公社委託の建物及び付属工作物補償調査費が 822 万円。建物補償調査は、羽村大橋東詰め交叉点付近 3 棟、1 棟は非木造、2 棟は木造、合わせて 1500 万円見込んでいる。通常、木造の一棟あたりの調査費用は、大体 300 万円、非木造は平均 1100 万円。

反対の会コメント

新都市建設公社に委託すると諸経費（福利厚生費・理事の報酬など）として 9 割の増加となる。審議会選挙費 620 万円は 9 割増で約 1200 万円、建物及び工作物補償調査費 822 万円も約 1500 万円と、約 2 倍という高額になる。

尚、建物補償の調査が非木造（鉄筋）は 1100 万円、木造は約 300 万円もかかる。区画整理が如何に無駄な事業かが判る。

阿部部長：新都市に委託している関係市町村連絡協議会で、建物移転経費等、事務費算定基準の見直しを行って貰いたいと言っている。行政側が出来る物、新都市建設公社が出来る事を仕分ける段階に入っている。

石川課長：審議会選挙の事務も内容によって出来る事は、職員が実施する。

先行取得の余剰地を約30箇の端切れにし、画地に付ける、不公平な区画整理

鈴木：今年度の土地購入費が1億1800万円、さらに購入する必要性が何処にあるのか？

阿部部長：区画整理事業は、建物が除却をされて更地状態の方が工事が進めやすいし、市の資産なので、普通財産として処分していく（売る）。

石川課長：取得面積は今年度は883.86㎡で合計3万6143.83㎡。総額40億9071万5896円。

反対の会コメント

土地の購入費は既に40億円。その多くが借金。この借金の元利返済額は年間1億円だ。市が平成16年から行っている行財政改革で節約額が31億円。いかに無駄かが明らかだ。

山崎：ウッドチップ歩道の調査は、お金をかけ何の為の調査だったのか？

阿部部長：ウッドチップ歩道は霜が降って滑りやすいという意見を貰い、職員が塩化カルシウム、凍結防止剤を散布している。

石川課長：アンケート回収は合計35件。自由欄の意見に、汚れているとか、乾燥して硬くなっている。滑りやすいという人も1人いた。

【反対の会に寄せられた市への提出意見は、これだけではない】

山崎：800万円ほど掛け検証調査までやったが、報告書に雪が降ると凍る、滑るとなかったのか？何の為にお金を掛けコンサルに頼んだのか。

阿部部長：雪で凍る、滑るので使用する際には配慮して行く。

反対の会コメント

結果ありきで使うことが決まっているかのような答弁。一度始めると止められない。間違っても覆い隠す。典型的な役所仕事だ。

山崎：ここ数年の羽村市を見ていると、市の特徴が見えない、街に元気がないの声をよく聞きく。原因の一つは行政のあり方だ。「しがらみを断ち切れない。一度決めたら見直せない。新しいことを始められない」これが市民や職員の意欲をそぎ、典型的な衰退自治体の道を歩んでいる。まずは、羽村市を覆う黒い霧。羽村駅西口区画整理事業の見直しが必要です。

